

令和2年度 作物栽培管理情報第6号

令和2年10月発行

大分県中部振興局 集落営農・農地活用班

1. 令和3年産麦 1. 播種前～播種期の管理作業

1) 酸度矯正 ～pHで生育の良否が決まります！～

参考 pH6.2を目標とした土壌改良材の施用量 (kg/10a)

資材名	圃場の土壌pH		
	<4.5	<5.0	<5.5
ミネラルG・ケイカル	300	180	85
炭カル	250	150	70
苦土石灰	240	145	70

注) 粘質～壤質土壌の場合

ポイント

(1) 麦圃場の好適pHは

①裸麦6.5以上 ②小麦6.0以上 ※pH6未満の酸性土壌は生育不良の原因です。収量が低い場合は栽培前に一度確認しましょう。

(2) 土壌改良材を耕起時に施用すると、効率的に作業出来ます。

2) 排水対策 ～水はけの良い圃場＝生育良好な圃場～

圃場周囲に額縁排水溝を施工
※深さ15cm以上 (目標20～30cm)

排水

1

畦

水の流れ

排水施工(1)播種前

畦間に排水溝を施工

排水

畦：麦播種部分

継ぎ目※水が流れにくい場所

排水施工(2)播種後

(上左図)
圃場内に設けた排水溝の
①継ぎ目に面した畦の凸凹を削る。
②排水溝の底を水の出口に向け低くする。
※水の流れやすい排水溝にしましょう！

ポイント

(1) 排水しにくい圃場には、弾丸暗渠等を追加施工しましょう。

(2) 栽培期間中は、額縁及び畦間の排水溝を定期的に点検・補修し、いつも良好な排水を保つことが重要です。

裏面へ

3) 播種期・施肥量 ～適期播種と基肥の確実な施用が基本～

参考1. 地帯区分（標高）・麦種別の播種及び播種量

地帯区分 (標高別)	麦種	播種適期 (期間)	11月		12月 月上旬
			月上旬	中旬	
平坦～準平坦地 (標高200m以下)	裸麦・小麦	適期	11月15日～12月10日		
		最適期	20日～25日		
中山間地 (標高200m以上)	裸麦のみ	適期	11月10日～25日		
		最適期	15日～20日		

播種量/10a	裸麦・小麦	適期播種 6～8kg 播種遅れ 8～10kg	※播種が遅れた場合は、適期より 10～20%増やし播種
---------	-------	---------------------------	--------------------------------

参考2. 施肥区分及び成分量（共通）※（内）は醤油用小麦の場合

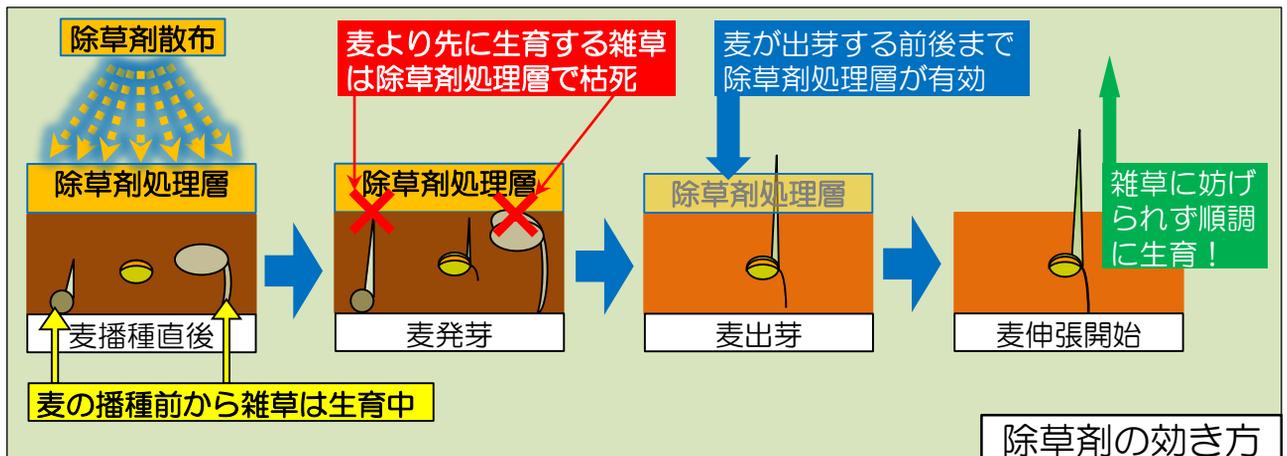
成分量 (kg/10a)	基肥	分けつ肥	穂肥	(実肥)	計
窒素 (N)	5	2	3 (5)	(6)	10 (16)
リン酸 (P ₂ O ₅)	8	0	0	(0)	8
カリ (K ₂ O)	5	1	2	(0)	8

(基肥施用量：化成肥料14-14-14で40kg/10a)

ポイント

- (1) 麦の播種期は毎年天候の不安定な時期です。
降雨等により中断・遅れが生じないように気象情報に注意し速やかに作業しましょう。
- (2) 収穫物の品質維持のため、本年購入した種子を用いましょう。
- (3) 基肥は適切な量を施用し、初期生育を確保しましょう。

4) 播種時の除草剤散布 ～雑草は栽培開始から抑えましょう！～



参考 播種期に散布する除草剤

薬剤名	散布時の注意		使用上の注意	
	使用量 (散布量)	/10a	使用時期	回数
リベレーターG	4～5kg	1回	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	1回
リベレーター フロアブル	60～80ml (100L)		播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	
ボクサー乳剤	400～500ml (70～100L)	2回 以内	小麦 播種後～麦2葉期 裸麦 播種後～麦2葉期 (雑草発生前～発生始期まで)	2回 以内

ポイント

- (1) 播種と除草剤散布の作業間隔が開くほど、雑草が広がりやすくなります。
除草剤は種子と同時に準備し、播種同時又は直後に散布出来るようにしましょう。
- (2) 元々雑草が多く、麦の生育期も発生が続く圃場への追加散布も準備しておくことで速やかに対応出来ます。